

I 開会

II 市長あいさつ（要旨）

- 昨年の総合教育会議では「ICT教育」と「外国人児童生徒教育」で、特別支援教室を中心に機器導入、或いは多言語化教育への対応について議論した。
- 過去には、義務教育学校設立に向けての動き、不登校児童生徒への対策や先生の働き方改革などの議論をしてきた。
- 今回は「教育大綱の制定」と「GIGAスクール」について色々と議論していきたい。
- 市立太田高校の男女比割合について、女子が多い傾向である。（背景には市立太田中の入試段階で、女子の割合が多いから。）今後教育委員会の中で協議してほしい。

III 教育長あいさつ（要旨）

- コロナ禍ではあるが、過日成人式と市立太田中の中入試が無事に行われた。これから高校入試の前期課程が始まるが、クラスターが起きないように（感染対策を）呼びかけていきたい。
- 今日はコロナ禍ということもあり、短時間の中で忌憚のない意見交換をしていきたい。

IV 協議事項

（1）太田市教育大綱の制定について

— 事務局より概要説明 —

〈金田委員〉

- （前回の綱目と比べて）大変分かりやすい表記になった。
- 学習指導要領が10年に1度改定をすると聞いたことがある。本市の教育大綱は4年に1度となっており、基本的には学習指導要領を念頭に（大綱を）組み立てていると思われるが、「義務教育の推進」と「高校教育の充実」の2点について、特にどこを留意されたのか。

〈事務局〉

- 知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」を重点に置き、学力の向上、豊かな心、健康安全というところを特に留意した。

〈金田委員〉

- 社会が複雑化すると、今まで顕在化してこなかった問題が大きく顕在化してくる。「不登校」はその最たる問題である。本市の特色の1つとして「不登校」を極め

て少なくする。そしてこのような問題が底流にあることをよく踏まえるべきだ。
○教育大綱案は賛成である。

〈池田委員〉

- 本市の生産出荷額は約2兆9千億円である。太田で学び、育った子どもたちが、ゆくゆくは太田に戻ってきて、如何にこの産業分野に貢献してもらえるか。
- 次のテーマである GIGA スクールに絡ませ、本市の産業政策と教育分野の連携を市長に伺いたい。

〈市長〉

- 産業形態は変化している。時代がハードからソフトに移っている。それを義務教育の中でどのように表現していくかは難しい。
- 今の子どもたちの流行は（SNS系）動画配信や（オンライン）ゲームが中心で、それが産業化している。
- 教育の中で、そこに視点を当てることは大事だと思うが、今の先生たちでは対応できないだろう。しかし、義務教育を含めた高校教育において、どういう形で進めるべきか探る必要はあるだろう。
- 学校教育、学習指導要領から脱皮したところでチャレンジしなければ、太田市はトップランナーにはなれない。

〈教育長〉

他に反対意見もないので、教育大綱案は「承認」としたい。

（2）太田市 GIGA スクール構想について

〈教育長〉

- 太田市の目指すべき子どもたちの姿、教員の育成・指導力、家庭との連携といった課題がある。

〈市長〉

- この GIGA スクールは、もともと学校が休校になったときに（オンラインで）利用するために始まったのが根底である。
- 太田にはスポーツ学校、芸術学校、そして英語は GKA（ぐんま国際アカデミー）がある。そしてもう1つ、子どもたちが興味を持っている「プログラミング」を独立体として新たな別動隊を作るのも面白いのではないか。
- この分野に興味を持っている子どもたちの受け皿を作るシステムを、教育の中に入れてはどうだろう。

〈佐藤委員〉

- 「スポーツ」、「芸術」、「プログラミング」を3分割して、特色を前面に押し出した内容であり、大変面白い。
- グローバルで見ると、プログラミングは小学校低学年からやっている。今の子どもたちは、スマートフォンでパソコンに近い機材に触れており、基礎ができていますので、どの年代から始めてもある程度の能力は身に付くだろう。
- プログラミングは本人の資質が重要であり、さらにはそれを教える側の人間の確保も非常に重要になってくる。

〈市長〉

- 国ではデジタル庁ができたが、そこでは民から人材を引っ張っている。芸術学校やスポーツ学校と同じレールに乗ってやってもらえればいいのでは。
- 議会でも「e-スポーツ」という言葉が初めて出てきた。そこでお金を稼いでいるのは驚きであった。社会が変わってきているということ。「車」、「鉄」の時代から変わってきている。

〈池田委員〉

- （プログラミング教室を）ぜひやってほしい。そこから起業してくる人も出てくる。GIGAスクールと絡ませて、教える人も引っ張って、ぜひ組織化してほしい。次の本市の産業構造のためになる。

〈金田委員〉

- 現在の太田市でのプログラミング教育を紹介してほしい。

〈事務局〉

- プログラミング的な思考を育成することを重視している。小学校5年の算数の図形でスクラッチ（ソフト）と、6年の理科で人感センサーライトの実験を行う。
- 中学～高校では技術分野においてロボットの要素も入ってくる。
- GIGAスクールではこれまでの教育実践から端末を融合させ、新たな学びをする。授業の中で端末を自由に使い、授業も効率的に行えることが期待できる。

〈金田委員〉

- あくまで論理的な思考を養う一助とするということ。
- 教育はつくづくお金がかかる。費用対効果を考えると、経営者は絶対にやらないはず。これは、構想実現の暁にはしっかりと検証すべき。
- 基本をしっかりと学ぶべき歳に基本を学び、GIGAスクールを組み合わせるべき。

〈池田委員〉

- 次世代の子どもたちが持っている武器が、端末やICTであると推測する。今後

は、IT や金融がお金を儲け、そこに製造業が付いてくる。次の時代の大きな武器となるため、文科省は一生懸命取り組んでいると勝手に推測している。

〈佐藤委員〉

- 大学の講義は、コロナの影響によりオンラインやオンデマンドがメインで、対面でやってもいいことをどこでもできる（講義が聞ける）ようにしただけである。
- どこでもアクセスできることで情報発信力は高まる。一方でメインとなるツール（アプリ）が Google となっており、使えば使うほど Google が儲かる仕組みになっている。結果、とんでもない億万長者が世界に何人か生まれる。
- 不登校児童生徒は、家でしか受けられないので、（オンラインやオンデマンド授業が）非常に有効であると言える。
- 最近は対人恐怖症の子どもたちも増えてきており、学びの場を提供できるチャンスである。実際に、今年は退学率が非常に少なかった。

〈野村委員〉

- 母親が初めて子どもにスマホを与えるにあたり、『スマホを使うための「18の約束」』（資料持ち込み）を紹介。（スマホをパソコンに置き換える）
- 家庭への端末の持ち帰りの際、故障や破損による補償の問題はどうなるのか、保護者は不安になると想像する。
- Wifi のない家庭へのフォローも気になる。放課後や土曜に先生が対応ということではなく、地域のボランティアのサポートがあれば良いと思う。

〈市長〉

- 間違っ壊した場合は行政で対応する。
- Wifi 環境のない家庭は、近くの公共施設（行政センター）に行ってやって（接続して）もらうのがよい。

〈教育長〉

- 小学校低学年ではまず学校内で触って、段階を踏んで徐々に慣れてもらうところから。

V 閉会